

大学における学習及び生活

言うまでもなく、大学入試は大学教育を受けるにふさわしい能力・適性等を備えた者を選抜するために行われている。従って各大学・学部または学科等にふさわしい学生を、入学試験によって選抜しているかを、本年度も、ほとんど全ての大学が調査研究しているのは当然のことであろう。ふさわしい学生であるかどうかを示す指数としては、資料として整っており、ある程度数量化し易い学内成績が最も一般的に用いられている。また入学者選抜の資料としては、高校調査書、共通第1次学力試験、第2次試験の成績が用いられている。調査研究の方法としては、本年度も、相関係数に要約して行っている大学が多いが、G-P分析、因子分析などを行っている大学もある。

入試データと学内成績との相関のうち、最も高いのは、高校調査書学習成績、次が第2次試験成績、そして第3が共通第1次学力試験成績との相関であるというのが、多くの大学の調査結果である。いくつかの例を示すと、

(1) 学内成績(教養成績)との相関係数は、高校調査書学習成績(0.361)、第2次試験成績(0.201)、共通第1次学力試験成績(0.125)である。

(2) 学内成績(教養成績)との相関係数は、高校調査書学習成績(0.309)、第2次試験成績(0.299)、共通第1次学力試験成績(0.168)である。

(3) 高校調査書と学内(教養)成績の高校別

相関は、平均0.5程度であるが、散らばりが大きい。

(4) 高校調査書の成績概評群別に、各年次における学内成績の平均点は、4年次に④群とA群が逆転した以外、どの学年でも成績は、④、A、B、C群の順であり、高校調査書の成績概評の良いもの程大学での成績がよいといっている。

このような結論が出るのは、現行の学力試験では共通第1次学力試験成績と第2次試験成績を主資料として用い、高校調査書は副次的資料としてしか用いない大学が多いことから当然のことと思われる。相関が高いといっても、上の例の程度であるのは、選抜後の入学者に関する調査であるから、やむを得ない。不合格者を含めた受験者全体の調査ができれば、違った結果が出るはずである。

更に、調査研究報告の例を挙げると、

(5) 高校成績(高校調査書評定平均値)と入試成績及び教養成績との相関係数は、全学部によってかなりの開きがあるが、高校成績と教養成績との相関係数は、医学進学課程を除き、最も高い値を示している。(全学9学部(系)のうち医学進学課程の0.15を除くと、最高0.58、最低0.31である。なお、教養成績と2次試験成績との相関係数は、最高0.29、最低0.03、1次試験成績との相関係数は、最高0.18、最低0.02である。)

高校調査書及び入試成績の個々の教科・科目

の成績と学内成績との関係については、

(6) 各科目別成績間の相関については、いずれの対応する科目の場合も、学内成績は入試成

績よりも高校成績との相関が高く、その中では特に現役の英語の相関が大きいのが注目される。

進路選択

この項目で特筆すべき事柄としては、進路選択のための大学情報の通信網による提供システムであり、進学志望者のための国公立大学に関する情報をデータベース化し、通信網を介して高等学校等に設置された端末装置から検索利用することを目的としている。昭和63年10月からNTTのキャプテン通信網を使用して運用が開始されていて、「ハートシステム」と名付けられている。

各大学・学部・学科からのメッセージ、授業科目、卒業後の就職先、受験情報などが収録されていて、大学を指定して検索できると共に、これらの情報を志望分野・大学所在地・入試選抜方法・大学院の設置の状況その他9項目をキーワードとして、条件を満たす大学学部を横断的に検索でき、これから大学の詳細な情報の取得や、大学案内・募集要項の請求方法などが得られることである。

さらに入試に関する速報（新設学部学科情報、入試実施時期など）また使用条件として全国各地からでも同一料金で利用できることも、その特長といえよう。

受験産業の情報とは異なった進学に関する情報の検索が可能で、正常な進路選択の一手段を

提供するものである。

大学側からの進路選択のための情報提供としては、この他に地元高等学校の進路指導者との意見交換、大学の施設や研究室の高校生への公開・大学説明会が挙げられよう。

いくつかの大学では上記の催しを開催した結果を報告している。まず、進路指導担当者に対しては懇談会、アンケートなどによって、選抜方法の分かりにくい点や進路指導のしにくい点を調査、アンケートや懇談会によって第2次試験問題の高校側からの評価を求めた例、高校と大学の意志の疎通を図る目的での懇談会を開催した例などがある。ただ本年度の報告書ではその結果入学者選抜に何を反映させたかまで言及したものは見あたらない。

高校生を対象とした見学説明会は、大学全体での開催や、学部単位に実施した例など開催方法・開催時期など千差万別で、参加者数も1学部当たり200名程度から大学単位で1000名を越える参加者があった例もある。ただこれらの大学ではその際にアンケート調査を実施していて、内容は大学によって異なるが、説明会を何で知ったか（担任の教師：47%、掲示：26%、新聞：10%）、主として知りたいこと（授業・研究